

学校教育目標	「チーム文花中として、生きる力（豊かな心、確かな学力、健康・体力）を伸ばし、社会に貢献できる生徒を育む学校」を目指す。
目指す学校像	・「分かる」「できる」「楽しい」が実感でき、確かな学力が身に付く学校 ・一人1台のタブレット端末やICT機器の効果的な活用により、教育DXを推進する学校 ・人権を尊重し、夜間学級との交流など、多様な文化の理解を積極的に推進する学校 ・チーム文花中として学校・家庭・地域が力を合わせ共に歩む学校
目指す生徒像	・人権を尊重し、自他を大切にする生徒 ・毎日の授業や家庭学習を大切にし、自ら学び・考える生徒 ・心身共に健康で何事にも粘り強く取り組む生徒・国際社会の一員として、社会に貢献できる生徒
目指す教師像	・生徒に対する教育的愛情と、教職に対する情熱・誇りをもち、協働できる教師 ・高い指導力をもち、生徒の生きる力（豊かな心、確かな学力、健康・体力）を伸ばせる教師 ・教育公務員として職責を自覚し、常に研鑽に励み、服務の厳正を図ることができる教師

○令和6年度 学校経営計画における重点内容

・「分かる」「できる」「楽しい」が実感でき、確かな学力が身に付く学習指導

・いじめ・不登校の対策強化

・自主的な活動の促進と感動ある学校行事の創造

・保護者・地域に開かれた学校づくり

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	○「分かる」「できる」「楽しい」が実感でき、確かな学力が身に付く学習指導を実現する。 ①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、ICT機器の有効活用をテーマに研修を行い、授業力向上を図る。 ②ふり返り期間の取り組みで、基礎学力の定着を図る。	①年4回の研修、年2回の互見授業の実施	4	教員アンケートで「校内研修が授業力向上につながった」等の肯定的な回答90%以上	4	年2回の生徒アンケートで「授業が分かりやすい」等の肯定的な回答90%以上	生徒アンケートで「授業がわかりやすい」等の肯定的な回答は93%と目標を達成できたが、DE層の割合は区学力調査で31.8とあと一歩のところだった。授業力向上の取り組みは軌道に乗っている。	授業力を校内研修・指導教諭の模範授業参観・授業見学週間等で向上させる。生徒の学習習慣は基礎学力コンテスト・ホームワークマラソン・学びに向かう力・人間性の育成で向上させる。	A	A	・教員の指導力向上と生徒の頑張りで学力が向上したことは大きく評価できます。 ・教科によっては能力別クラス編成の方が学力向上につながるのではと考えます。
			3	教員アンケートで「校内研修が授業力向上につながった」等の肯定的な回答80%以上	3	年2回の生徒アンケートで「授業が分かりやすい」等の肯定的な回答80%以上。					
			2	教員アンケートで「校内研修が授業力向上につながった」等の肯定的な回答70%以上	2	年2回の生徒アンケートで「授業が分かりやすい」等の肯定的な回答70%以上。					
			1	教員アンケートで「校内研修が授業力向上につながった」等の肯定的な回答70%未満	1	年2回の生徒アンケートで「授業が分かりやすい」等の肯定的な回答70%未満。					
		②学力向上委員会の計画に沿った年3回の振り返り期間の実施。	4	教員アンケートで「学力向上委員会の計画に沿ってふり返り期間の学習が実施できた」等の肯定的な回答が90%以上	4	定期考査等においてDE層の割合が30%未満					
			3	教員アンケートで「学力向上委員会の計画に沿ってふり返り期間の学習が実施できた」等の肯定的な回答が80%以上	3	定期考査等においてDE層の割合が35%未満					
			2	教員アンケートで「学力向上委員会の計画に沿ってふり返り期間の学習が実施できた」等の肯定的な回答が70%以上	2	定期考査等においてDE層の割合が40%未満					
			1	教員アンケートで「学力向上委員会の計画に沿ってふり返り期間の学習が実施できた」等の肯定的な回答が70%未満	1	定期考査等においてDE層の割合が40%以上					
		特別な支援を必要とする生徒に対して組織的な支援を行う。 ①特別支援教室及び特別支援委員会による個別指導計画に基づいた支援を行う。 ②巡回心理士の授業観察や校内研修を通し、教職員の特別支援教育についてのスキルアップを図る。	4	校内委員会での計画についての検討が5回	4	特別支援教室終室者が20%以上	山下主幹教諭を中心に特別支援教室、SSW、教育センター等と綿密に連携をとり、個別指導計画に基づき、校内委員会で情報共有し支援することができた。	普通教室に在籍し、特別支援教室を申請していないが、特別な支援を要する生徒に対してどのような支援が有効かを校内研修等を通して学び、教職員の支援スキルを向上させる。	A	A	保護者から丁寧な個別指導を行ってもらえていると聞いている。先生方の熱心な姿が伝わっていると思う。
			3	校内委員会での計画についての検討が4回	3	特別支援教室終室者が15%以上					
			2	校内委員会での計画についての検討が3回	2	特別支援教室終室者が10%以上					
			1	校内委員会での計画についての検討が2回以下	1	特別支援教室終室者が10%未満					
			4	教員アンケートで「巡回心理士等のアドバイスは支援に役だった」等の肯定的な評価が90%以上	4	学校関係者アンケートで「学校は特別支援教育に良く取り組んでいる」等の肯定的な評価が90%以上					
			3	教員アンケートで「巡回心理士等のアドバイスは支援に役だった」等の肯定的な評価が80%以上	3	学校関係者アンケートで「学校は特別支援教育に良く取り組んでいる」等の肯定的な評価が80%以上					
		②特別支援教育についての研修1回。授業観察後の支援方法の具体的なアドバイス5回。	2	教員アンケートで「巡回心理士等のアドバイスは支援に役だった」等の肯定的な評価が70%以上	2	学校関係者アンケートで「学校は特別支援教育に良く取り組んでいる」等の肯定的な評価が70%以上					
			1	教員アンケートで「巡回心理士等のアドバイスは支援に役だった」等の肯定的な評価が70%未満	1	学校関係者アンケートで「学校は特別支援教育に良く取り組んでいる」等の肯定的な評価が70%未満					

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
	○社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育に取り組む。 ①発達段階に応じた計画的な進路指導を行なう。 ②キャリアパスポートの有効活用を図る。	①1学年で職業調べ、2学年で職場体験、3学年で上級学校訪問を中心とした進路指導を行う。	4 各体験後の生徒アンケートの満足度が90%以上 3 各体験後の生徒アンケートの満足度が80%以上 2 各体験後の生徒アンケートの満足度が70%以上 1 各体験後の生徒アンケートの満足度が70%未満	4	4 保護者アンケートで「学校での体験活動は進路選択に役立っている」等の肯定的な回答が90%以上 3 保護者アンケートで「学校での体験活動は進路選択に役立っている」等の肯定的な回答が80%以上 2 保護者アンケートで「学校での体験活動は進路選択に役立っている」等の肯定的な回答が70%以上 1 保護者アンケートで「学校での体験活動は進路選択に役立っている」等の肯定的な回答が70%未満	4	1学年では職業調べ、2学年では講師を招いたマナー教室や職場体験、3学年では定期的な進路指導及び2回の面接練習等を実施し、自己のキャリア形成について考えさせることができた。	より生徒の希望になかった体験先を見つけ、より良い経験をさせる。また、キャリア指導においても個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。	A	A	千葉大学・IU大学と連携して、多様な社会的なつながりができるようにご協力お願いします。
		②年3回のキャリアパスポートを活用した進路学習を行う。	4 教員アンケートで「キャリアパスポートを活用し計画的にキャリア教育ができた」等の肯定的な回答が90%以上 3 教員アンケートで「キャリアパスポートを活用し計画的にキャリア教育ができた」等の肯定的な回答が80%以上 2 教員アンケートで「キャリアパスポートを活用し計画的にキャリア教育ができた」等の肯定的な回答が70%以上 1 教員アンケートで「キャリアパスポートを活用し計画的にキャリア教育ができた」等の肯定的な回答が70%未満		4 生徒アンケートで「キャリア教育で将来の職業を考えることができた」等の肯定的な回答が90%以上 3 生徒アンケートで「キャリア教育で将来の職業を考えることができた」等の肯定的な回答が80%以上 2 生徒アンケートで「キャリア教育で将来の職業を考えることができた」等の肯定的な回答が70%以上 1 生徒アンケートで「キャリア教育で将来の職業を考えることができた」等の肯定的な回答が70%未満						
	○いじめ、不登校等の予防や早期解決に向けた組織的な取組を行う。 ①いじめアンケートや生活指導部会での情報共有により、いじめの未然防止及び早期発見に努める。 ②面談等で生徒理解を深め、学級内に心の居場所づくりを行い、SSRや関係諸機関と協力して不登校の未然防止、教室復帰を目指す。	①毎月いじめアンケートを実施し、即時指導・早期解決を目指す。	4 教員アンケートで「いじめアンケートを活用し、即時指導・早期解決ができた」等の肯定的な回答が100% 3 教員アンケートで「いじめアンケートを活用し、即時指導・早期解決ができた」等の肯定的な回答が90%以上 2 教員アンケートで「いじめアンケートを活用し、即時指導・早期解決ができた」等の肯定的な回答が80%以上 1 教員アンケートで「いじめアンケートを活用し、即時指導・早期解決ができた」等の肯定的な回答が80%未満	3	4 生徒アンケートで「いじめをなくすために力になってくれる」等の肯定的な回答が90%以上 3 生徒アンケートで「いじめをなくすために力になってくれる」等の肯定的な回答が80%以上 2 生徒アンケートで「いじめをなくすために力になってくれる」等の肯定的な回答が70%以上 1 生徒アンケートで「いじめをなくすために力になってくれる」等の肯定的な回答が70未満	3	SSR（スモール・ステップ・ルーム）と連携し、教室に入りづらい生徒、学習に不安のある生徒の支援を丁寧に行うことができた。しかし、不登校率は目標の6%台より多い、8%台になっている。	教育センターのステップ教室・サポート教室や、他の教育機関とも連携し、生徒の学びの機会を保障していく。	B	A	不登校の子供達が、中学校卒業後も楽しく過ごせるように、学習面以外の部分でも学校での学びがプラスになるようにお願いします。
		②1年でSCによる全員面接を行い、関係諸機関と連携して不登校減少を目指す。	4 教員アンケートで「SSR・SC等と協力できている」等の肯定的回答が90%以上 3 教員アンケートで「SSR・SC等と協力できている」等の肯定的回答が80%以上 2 教員アンケートで「SSR・SC等と協力できている」等の肯定的回答が70%以上 1 教員アンケートで「SSR・SC等と協力できている」等の肯定的回答が70%未満		4 関係諸機関と全く繋がっていない生徒ゼロ 3 関係諸機関と全く繋がっていない生徒2%未満 2 関係諸機関と全く繋がっていない生徒4%未満 1 関係諸機関と全く繋がっていない生徒4%以上						
生活指導等	○基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育に取り組む。 ①生徒会活動として基本的生活習慣の確立のための活動を行う。 ②各行事における協働の中から学ぶ、思いやりと支え合いの取組（実行委員会等）を充実させて、良好な人間関係づくりと能力を伸長させ	①生徒会による挨拶運動を月1回、生活指導教員を中心に毎朝の校門指導を実施する。	4 生徒による挨拶運動・教師による校門指導完全実施 3 生徒による挨拶運動・教師による校門指導実施95%以上 2 生徒による挨拶運動・教師による校門指導実施90%以上 1 生徒による挨拶運動・教師による校門指導実施90%未満	4	4 生徒アンケートで「各委員会活動や係活動に積極的に取り組んでいる」等の肯定的回答が90%以上 3 生徒アンケートで「各委員会活動や係活動に積極的に取り組んでいる」等の肯定的回答が80%以上 2 生徒アンケートで「各委員会活動や係活動に積極的に取り組んでいる」等の肯定的回答が70%以上 1 生徒アンケートで「各委員会活動や係活動に積極的に取り組んでいる」等の肯定的回答が70%未満	4	委員会活動を充実させ、生徒が主体となる活動を増やすことができた。生徒会主催の地域清掃には毎回50名を超える生徒が参加している。	生徒自身が自分が所属する集団をより良くするために何ができるか考え、実行できる機会をつくり、その力を向上させる。	A	A	生徒が中心になって美化コンクールなどを行い、一生懸命活動しているところが良い。
		②各行事を通してより良い集団を作る資質・能力を伸長させる。	4 教員アンケートで「各行事で生徒の実行委員会を中心により良い集団づくりを実践させた」等の肯定的な回答が90%以上 3 教員アンケートで「各行事で生徒の実行委員会を中心により良い集団づくりを実践させた」等の肯定的な回答が80%以上 2 教員アンケートで「各行事で生徒の実行委員会を中心により良い集団づくりを実践させた」等の肯定的な回答が70%以上 1 教員アンケートで「各行事で生徒の実行委員会を中心により良い集団づくりを実践させた」等の肯定的な回答が70%未満		4 生徒・保護者アンケートの「学級活動や行事に積極的に取り組んでいる」等の肯定的回答が90%以上 3 生徒・保護者アンケートの「学級活動や行事に積極的に取り組んでいる」等の肯定的回答が80%以上 2 生徒・保護者アンケートの「学級活動や行事に積極的に取り組んでいる」等の肯定的回答が70%以上 1 生徒・保護者アンケートの「学級活動や行事に積極的に取り組んでいる」等の肯定的回答が70%未満						
	○危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組を行う。 ①安全な生活を実現するために必要な力を身に付けさせる。 ②防災教育の充実を図る。	①セーフティ教室・交通安全教室・情報モラル教育・薬物乱用防止教室・いじめ防止教育を計画的に実施する。	4 年3回の保護者との意見交換会の完全実施 3 年2回の保護者との意見交換会の実施 2 年1回の保護者との意見交換会の実施 1 保護者との意見交換会を実施せず	3	4 保護者アンケートの「学校は心を育てる教育に取り組んでいる」等の肯定的回答が90%以上 3 保護者アンケートの「学校は心を育てる教育に取り組んでいる」等の肯定的回答が80%以上 2 保護者アンケートの「学校は心を育てる教育に取り組んでいる」等の肯定的回答が70%以上 1 保護者アンケートの「学校は心を育てる教育に取り組んでいる」等の肯定的回答が70%未満	3	計画的な安全指導ができた。より地域と協働し、地域の教育力を引き出していく。	新たに地域学校協働本部を立ち上げ、地域と学校が協働できるシステムを創りあげる。	B	B	生徒の力を向上させるには、学校・保護者・地域が一体となって活動する必要がある。
②1年生で初級救命救急ライセンスの取得。Jrレスキュー隊の上級救命救急ライセンスの取得と地域防災訓練や防災コンテスト参加。	4 教員アンケートで「防災教育が充実している」等の肯定的な回答90%以上 3 教員アンケートで「防災教育が充実している」等の肯定的な回答80%以上 2 教員アンケートで「防災教育が充実している」等の肯定的な回答70%以上 1 教員アンケートで「防災教育が充実している」等の肯定的な回答70%未満	4 生徒・保護者アンケートの「文花中は防災教育が充実している」等の肯定的回答90%以上 3 生徒・保護者アンケートの「文花中は防災教育が充実している」等の肯定的回答80%以上 2 生徒・保護者アンケートの「文花中は防災教育が充実している」等の肯定的回答70%以上 1 生徒・保護者アンケートの「文花中は防災教育が充実している」等の肯定的回答70%未満									

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価					
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等			
学校・ 管理 運営	経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う。 ①管理職の方針を確実に伝え、組織的な取り組みを行う。	①週 1 回の企画会・運営委員会と、毎月 1 回の職員会議の実施。	4	企画会・運営委員会・職員会議の完全実施	4	4	生徒・保護者アンケートで「文花中は良い学校だ」等の肯定的回答90%以上	4	各分掌・企画会・運営委員会・職員会議等が有機的につながり、組織的な運営ができた。	夜間学級と昼の学級との連携を深め、都内に 8 校しかない夜間学級がある強みを生かしていく。	A	A	先生方がとても丁寧に子供と接している。その分先生方の負担が大きすぎないかと心配なところもある。	
			3	企画会・運営委員会・職員会議の実施率95%以上		3								生徒・保護者アンケートで「文花中は良い学校だ」等の肯定的回答80%以上
			2	企画会・運営委員会・職員会議の実施率90%以上		2								生徒・保護者アンケートで「文花中は良い学校だ」等の肯定的回答70%以上
			1	企画会・運営委員会・職員会議の実施率90%未満		1								生徒・保護者アンケートで「文花中は良い学校だ」等の肯定的回答70%未満
	○子供の実態に合わせた教育目標設定及び評価等を実施する。 ①各アンケートの実施による実態把握のもと学校改善を行う。	①年 2 回の生徒アンケート、各行事・学校公開での保護者アンケートの実施	4	各アンケートの完全実施	4	4	保護者アンケートで「生徒・保護者・地域の願いに応えた教育を進めている」等の肯定的な回答90%以上	4	各アンケートを生かし、迅速に改善している。	保護者や地域の意見をより具体的に吸い上げる改善をしていく。	B	A	アンケートや学校運営連絡協議会での意見を参考に改善している。	
			3	各アンケートの実施率90%以上		3								保護者アンケートで「生徒・保護者・地域の願いに応えた教育を進めている」等の肯定的な回答80%以上
			2	各アンケートの実施率80%以上		2								保護者アンケートで「生徒・保護者・地域の願いに応えた教育を進めている」等の肯定的な回答70%以上
			1	各アンケートの実施率80%未満		1								保護者アンケートで「生徒・保護者・地域の願いに応えた教育を進めている」等の肯定的な回答70%未満
	○適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。 ①ICT環境も含めた教育環境の整備と充実を図る。	①ICT推進委員会や美化担当を中心に年 2 回の環境整備調査を行う。	4	環境整備調査の完全実施	4	4	保護者アンケートで「教育環境整備に努めている」等の肯定的な回答が90%以上	4	学校運営交付金を有効活用し、ICT環境を整えることができた。	導入したアプリの有効活用についてOJTによる習熟をすすめる。	B	A	タブレット端末など新しい機器を活用して授業をしているようすがよく分かりました。	
			3	環境整備調査を年 2 回実施したが不十分		3								保護者アンケートで「教育環境整備に努めている」等の肯定的な回答が80%以上
			2	環境整備調査を年 1 回実施		2								保護者アンケートで「教育環境整備に努めている」等の肯定的な回答が70%以上
			1	環境整備調査未実施		1								保護者アンケートで「教育環境整備に努めている」等の肯定的な回答が70%未満
家庭・ 地域 連携	○教育方針や教育活動の様子などを分かりやすく伝える。 ①各たよりを定期的に発信する。	①学校だより・学年だよりを月1回以上ホームページやCOCOO等で発信する。	4	学校だより・学年だよりの発行率100%	4	4	保護者アンケートで「学校は積極的に情報を発信している」等の肯定的な回答が90%以上	4	学校ホームページの充実、地域の小学生がターゲットの「文花中NEWS」の月 2 回の発行と町会掲示板への掲示ができた。	今後も地域に学校の教育活動を積極的に発信していく。	A	A	家庭・地域への情報発信や、ふれあい祭りへのかかわりなど積極的に実施しており、今後も継続して行っていたきたい。	
			3	学校だより・学年だよりの発行率90%以上		3								保護者アンケートで「学校は積極的に情報を発信している」等の肯定的な回答が80%以上
			2	学校だより・学年だよりの発行率80%以上		2								保護者アンケートで「学校は積極的に情報を発信している」等の肯定的な回答が70%以上
			1	学校だより・学年だよりの発行率80%未満		1								保護者アンケートで「学校は積極的に情報を発信している」等の肯定的な回答が70%未満
	○保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を推進する。 ①PTA活動への参加や、地域の活動への協力を行う。	①学校行事・地域パトロール・ボランティア活動等で保護者や地域との連携を深める。	4	教員アンケートで「保護者・地域と協力して教育活動を推進している」等の肯定的回答が90%以上	4	4	保護者・地域アンケートで「先生はPTAや地域と協力している」等の肯定的な回答が90%以上	3	地域と協力し、ふれあい祭りなどに生徒が参加する機会をつくれた。	地域やPTAと関わる教員を増やしていく。	B	A	「地域ふれあい祭り」「地域にできた 2 大学との連携」も大切です。いろいろな可能性が大切です。	
			3	教員アンケートで「保護者・地域と協力して教育活動を推進している」等の肯定的回答が80%以上		3								保護者・地域アンケートで「先生はPTAや地域と協力している」等の肯定的な回答が80%以上
			2	教員アンケートで「保護者・地域と協力して教育活動を推進している」等の肯定的回答が70%以上		2								保護者・地域アンケートで「先生はPTAや地域と協力している」等の肯定的な回答が70%以上
			1	教員アンケートで「保護者・地域と協力して教育活動を推進している」等の肯定的回答が70%未満		1								保護者・地域アンケートで「先生はPTAや地域と協力している」等の肯定的な回答が70%未満
	○文中ブロック小学校 3 校・連携幼保園との学びの連続性を重視した交流活動を行う。 ①幼保小中一貫教育連絡協議会を中心に交流活動を充実させる。	①年 3 回の連絡協議会、年 4 回の担当者会を行う。	4	連絡協議会と担当者会の実施率が90%以上	4	4	教員アンケートで「学びの連続性を重視した連絡協議会が実施できた」等の肯定的な回答が90%以上	4	部会ごとに学びの連続性を図り、深めることができた。	今後も情報共有と一貫した教育の連続性を高めていく。	A	A	中学校生徒が地域の 3 小にあいさつ運動に来てくれて小学生のあいに対する意識が高まった。	
			3	連絡協議会と担当者会の実施率が80%以上		3								教員アンケートで「学びの連続性を重視した連絡協議会が実施できた」等の肯定的な回答が80%以上
			2	連絡協議会と担当者会の実施率が70%以上		2								教員アンケートで「学びの連続性を重視した連絡協議会が実施できた」等の肯定的な回答が70%以上
			1	連絡協議会と担当者会の実施率が70%未満		1								教員アンケートで「学びの連続性を重視した連絡協議会が実施できた」等の肯定的な回答が70%未満

○令和 6 年度 学校経営報告のまとめ（総括）

特に力を入れた、昼の個別最適な学びの充実についての研修や、夜間学級の日本語指導の研究が成果をあげ、昼では生徒アンケートの「授業が分かりやすい」93%・「授業には意欲をもって取り組んでいる」97%・「自分たちで授業に集中できる雰囲気をつくっている」96%など高い肯定的な回答が得られた。今後も地域にできた 2 大学との連携などに力を入れ、チーム文花中で学校の教育活動を充実させていく。